

12月09日O.A. バリバラの舞台裏 “あの人たち”の素顔①

スタジオ出演◆ 山本シュウ・・・ラジオDJ Eテレ「バリバラ」レギュラー出演者 玉木幸則（たまき・ゆきのり）・・・Eテレ「バリバラ」レギュラー出演者 脳性まひ
--

はるな愛：は～い！バリアフリー・バラエティー「バリバラR」の時間で～す。

パーソナリティのはるな愛です。よろしくピ～ス。

「バリバラR」は、毎週金曜よる9時、Eテレで放送している障害者情報バラエティー「バリバラ」のラジオバージョンです。テレビでは紹介できなかった裏話やお得情報をプラスしてお伝えしています。今日はですねラジオのオリジナル企画です。「バリバラの舞台裏 あの人たちの素顔」と題してお送りしていきたいと思います。

（スタジオ 拍手）

はるな愛：紹介前から超にぎやかですね。ゲスト紹介してみたいと思いま～す。Eテレ「バリバラ」のレギュラー出演者、山本シュウさんと玉木幸則さんで～す。

山本シュウ：どうもどうもはいはいはい。いやあ 山本シュウさんが出てきた・・・ブー、わ～、どうも。

玉木幸則：玉木幸則で～す。

山本シュウ：愛ちゃん、もう声ガラガラやね、僕も君も。

はるな愛：ちょっと、みんなガツサガサじゃないですか。

山本シュウ：みんなラジオ向きじゃないわよ、これ。

はるな愛：でも、今日はね、あの普段私、バリバラRというこのラジオやらせていただけてますけど、バリバラ、テレビEテレでやってるこのもともとの番組、テレビの番組のお二人が来てね、いつもとまた全然違うテレビのバリバラのイメージです。

山本シュウ：そうでしょ。でもね、びっくりしますよ。NHKのこの放送ブース、オーケストラが入るようなでか～いスタジオに3人だけ入れられててね、想像つかないと思いますけどね。

はるな愛：でもホントテレビでも、というか私もゲストに出していただいて、玉木さんの大ファンやし。

玉木幸則：ありがとうございます。

はるな愛：シュウさんは、私は超昔からお世話になってるので、今日はお二人の素顔をじっくりとこのラジオの番組で。最初にそれぞれのプロフィールをシュウさんからお願いしていいですか？

山本シュウ：はい！ え～、台本上完全にラジオDJということをお願いした台本になっています。全部俺にふれって感じになってます。

はるな愛：お願いします。

山本シュウ：まかしといて愛ちゃん。まずは私、山本シュウでございますけれども、大阪府門真市出身。

48歳。え～、本業はラジオDJ。二人の娘、二十歳の娘と高校1年の娘、娘の小学校のPTA会長をなんとレモンのかぶりもんでレモンさんていう愛称で5年間務めた経験から最近では教育関連の

講演会なんかめっちゃやってまして、某国立大学の非常勤講師までやっています。

よろしくお願いましませ〜。

はるな愛：(笑) すごいですね。

山本シュウ：そうなんです。いろんなことやってますけど。

はるな愛：全国いろいろ講演まわったり。

山本シュウ：そうなんですよ。もうあの、レモンのかぶりもんしてね、レモンさんて言う人とラジオDJの
山本シュウが一致してない人たくさんいらっっしゃいますけど。

はるな愛：いろんな顔持ってる。

山本シュウ：そうなんですよ。

玉木幸則：レモン汁飛ばしもって。

山本シュウ：そうなんです。かぶりもんにね、チューブが入っててですね、水がぴゅーって出るようになってる。

はるな愛：ほんとに？

山本シュウ：ええ。それでね子どもをけちらしたろ思てね。かぶりもんしてると寄ってきよるんですね。

ところがね、もっとかけて、もっと大騒ぎになってしまったというですね、最近使ってません。

さあ、今日はですね、え〜、ぼくと同じようにゲストで呼ばれたバリバラの司会者、史上初、
いや、日本初、いやいや世界初ではないか、言語に障害がありながら司会者に抜擢されたこの男、
玉木幸則 44 歳。兵庫県姫路市出身。仮死状態で生まれたことから脳性まひとなり、言語障害や手足
が不自由な障害を持っている。そして2009年からNHK教育テレビ「きらっといきる」で一緒に
番組の司会を担当。兵庫県西宮市で障害者の自立生活のサポートをやっているのが、表向きの顔。

玉木幸則：だから〜。だから〜。

山本シュウ：何？

玉木幸則：もうこれでええから。はい次いこ。・・・愛ちゃん、ちよつとずつあとで小出しに。

山本シュウ：そうですね。特技はあの、その障害からね、普段は体が揺れてるんですけどもね、女性とチュー
するときは、その揺れがびたつと収まってしまうという特技を持っていますけど。

はるな愛：そうなんだ。チューしたら止まるんですね。

玉木幸則：違う。その前に、止まるの。

はるな愛：その前に止まるの？

山本シュウ：そして、今日は僕が紹介させていただきます。

はるな愛：すいません。

山本シュウ：はるな愛ちゃん、大阪市出身。永遠の18歳のアイドルでございます。

はるな愛：ありがと〜。

山本シュウ：本名は大西賢示です。

はるな愛：いや、言うよね。

山本シュウ：男の子の身体と女の子の心を持って生まれてきた、つまりは性同一性障害。

そしてですね、性別適合手術を受けて、現在はタレントとして活躍。

2009年には、性別適合手術を受けた女性が美を競うタイのコンテストで優勝し、ミス・インターナショナル・クイーンに選ばれました。(拍手)

はるな愛：ありがとうございます。

山本シュウ：世界一の美。

はるな愛：嬉しいです。

山本シュウ：これ、すごいです。

はるな愛：でも、お父さんがずっと「男やったら絶対にお前の選んだ道とことん一番になれよっ」で言ったので、なんかこれで返せたかなと思って。

山本シュウ：一番で。世界一やで。すごい。

玉木幸則：だからドキドキしてるねん、今日。

はるな愛：ほんと？

山本シュウ：もうすでに、さっきからね、君の胸元ばかり見てますよ。今日は胸元開いてないトレーナーのパジャマみたいなを着て

はるな愛：パジャマじゃないですよ。

山本シュウ：力抜くよ、ラジオ。

玉木幸則：オレ、透視できるねん。

山本シュウ：透視できるの。特技、透視ですよ。はるな愛の特技は突然おっさんに変わることです。

はるな愛：やだ。そんな変わんないけど、言うよね。

山本シュウ：怖いよ。すごまれたとき、怖いよ。

はるな愛：でも、こう紹介して下さって、私の知らなかった玉木さんの生まれたときに仮死状態だったとか。

山本シュウ：そうらしいですよ。

はるな愛：知らないこといっぱいありましたけど。

山本シュウ：ええ。

玉木幸則：だから僕死なない。

山本シュウ：死なへん。

玉木幸則：最初死にかけてるから。

はるな愛：そっか、もう一回死にかけてるから。

玉木幸則：だからもうずっと生きてると思う。

山本シュウ：だって、阪神淡路大震災のときに天井落ちてきたんやで。

はるな愛：え？ほんと？

玉木幸則：そうそう。

山本シュウ：無傷やで。

玉木幸則：無傷。

玉木幸則：ホンマ。横に柱落ちてきたけど、当たらんかったみたい。

玉木幸則：右肩に天井が乗ってたもん。

山本シュウ：ど〜っと。

はるな愛：右肩に？

玉木幸則：だから起きれなかったんや。

山本シュウ：え〜。そんな二人でございます。よろしくお願いします。

はるな愛：ありがとうございます。

はるな愛：でもね、シュウさんに今、プロフィール読んでもらいましたが、私ほんとに昔から・・・。

山本シュウ：実は・・・。

はるな愛：そうなんですよ。

山本シュウ：実は・・・。

はるな愛：初めて会ったんが私が中学2年生のときですかね。

山本シュウ：そうです。今でこそね、言いますけどもね、その当時ぼくは大阪ミナミの鰻谷っていうところに
ですね、日本でずっとディスコしかなかった時代に、日本で2つ目のクラブというのをね、営業して
いました。ここに大西賢示という中学二年生の学生服で詰襟を着た男の子が、ある人を通じて紹介され
たんですね。何でこの夜の街のクラブに紹介されるかという、実は、この子、ものすごい才能あるね
んけど、ショーをすることがないと、どっかないかというて、それでうちのクラブはね、ショーをして
たんですよ。じゃあ、勉強や言うことで、やってごらんということだね。

はるな愛：それまでに素人番組とかこうテレビは出してもらってて、男の子で松田聖子さんのモノマネとか
やってたんですよ。その芸を、そのクラブで・・・今からだからホントに、26年ぐらい前ですかね。

山本シュウ：そう。でもね「その時からこの子は天使でした」って、みんなに言うてるんですよ。不思議な空気
を持った男の子やなと思ってたんよ。

はるな愛：私にとっては、すごい自由な女の子の格好して、表現できる自由な場所だったので、この場所が
ホントに生きがいというか楽しい場所だったので、もう全部見る、大人の初めての世界がそこに
あったので、何があっても嬉しくて新鮮だったんですよ。

山本シュウ：素晴らしかったよ。ショータイムは一生懸命やったしね、

はるな愛：それから、もうずいぶん8年以上経ってから。

山本シュウ：そうそう。俺そのあと、クラブ辞めてNY行って、ほんでNY一生住んだろと思ってたんよ。

ところがまあ帰ることになって、帰ったらラジオDJにスカウトされてて、ほいでDJ始めとったんや。

はるな愛：スカウト？

山本シュウ：スカウト。それで、そしたら、芸能界におるっちゃう訳や。ほな、うちの番組においでや言うて。

はるな愛：呼んでもらったんですよ。

玉木幸則：それがいつよ。

山本シュウ：俺が31, 2. やからな。31歳。48ひく31は17年前。

はるな愛：17年前だ〜。

山本シュウ：そうやで。

はるな愛：で、シュウさんのとこに行った時に私の「はるな愛」っていう名前は、シュウさん知らないから、

ずっと大西ケンジやったから、「大西くん」言うて、(笑) 第一声がそれやったんすごい覚えてるんですけど。

山本シュウ：大西賢示。

はるな愛：そのときに、シュウさんに忘年会とかいろいろあるからおいでって呼んでもらって、ほんで、みんな
でこうなんか、芸能人の人とか、いろんな業界の人で忘年会を呼んでもらって。

山本シュウ：「おせつ会」というな忘年会やってるねん。

はるな愛：毎年。

玉木幸則：それ、聞いたことあるな。

山本シュウ：いろんな人紹介するねん、もう。

玉木幸則：今年は行きたいなと思ってるんやけど。

はるな愛：ね、行きましょう。

山本シュウ：脳性まひブラザーズは来たで。

(笑)

はるな愛：でも、いろんなすごい業界の方がいる、世界が広がる、また会に呼んでもらって、私もお仕事の枠が
広がって、もうそれから絶対お前行けるって、でもその初めて会った時は、まだこんなテレビ出て
なかったんですよ。

山本シュウ：そうそうそう。

はるな愛：テレビ、もう全然、事務所に入ったけど、オーディションに落ちたり、あと、偉いプロデューサー
さんに、君は、あのそういう、なんかオネエみたいなキャラだから、一生たぶんテレビとか出れない
と思うから夜の匂いするから、もうこういうことは諦めて夜働けとか。

山本シュウ：ちょっと、呼んで来いそいつ。

はるな愛：(笑)

玉木幸則：ちょっとここで説教いおか。

はるな愛：説教してほしい。

山本シュウ：あかん、あかん。We are SHINSEKI やから説教しても。

玉木幸則：なんで、そういうこと言うんですか？

山本シュウ：ほんとに。ええ子なくせに。

はるな愛：でも、そういうのが、ずっと絶対やったるっていうか、こうなんかね、こう、励みになって、
あきらめないっていう気持ちもあったので、今、こうやって、シュウさんを番組にこうゲストで
来ていただいて、ていうね、玉木さん。この辺もなんかすごい嬉しいです。今日。

玉木幸則：むちゃくちゃうれしいんやな。

山本シュウ：愛ちゃん、一応台本ではここは俺のトークやねん。

はるな愛：やだ。

山本シュウ：はるな愛のトークは、後半出てくるんやけど。

はるな愛：ごめんなさい。ごめん。ごめんなさい。

山本シュウ：いいのよいいのよ。だから、要はね、シュウさんは、ちっちゃいときから、ちっちゃいというか若いときからおせっかいなのよ。もうそれだけ、シュウさんの素顔は。もうちっちゃいときからおせっかい。今、おせっかいなんじゃないの。誰に対してもおせっかいで、それはなんでか言うたらあ、所謂長屋育ちだったからや、近所のおっちゃん、おばちゃんのおせっかいで育てられたからもう超おせっかいな男の顔したただのおばちゃん言われてるね、今。ホンマおばちゃんみたいな、しゃべり方になってきたしな、最近は。だから、もう、昔からそうやった、おせっかいやってるから、例えば講演会するのもそうやけど、障害者の番組に呼ばれたら、ほな行こかいうのはなんでや言うたら、そら、障害者に対してもおせっかいしたいこといっぱいあったから、それはなんや言うたら、昔、スティービー・ワンダーがやね、NYにぼく住んでたことがあるんやけど、NYでサタデーナイトライブっていうのをやってた訳やね。有名なお笑い番組や。サタデー・ナイトライブ。そこまあ、スティービー・ワンダーが出の、いろんなアーティストが出て、エディー・マーフィーが、まあ、その当時じゃないんやけど、昔のビデオやけども、エディー・マーフィーが司会やってるときにコントとか、いっぴいやるバラエティーや、そこにスティービーワンダーが出る訳や。な。盲目のアーティストとか言われてるやろ、それがいっしょにコントするのや、エディー・マーフィーと。エディー・マーフィーが車のってます。プップーって。ほんならスティービー・ワンダーが助手席に乗って、隣で、世界平和が、あ、世界平和がとか言って、またしゃべってるのや。あ、人類は皆愛しあって、あ〜とか、揺れながら、こう首揺れるやん、あの人。こうやって揺れるやん、揺れるやん。そう揺れながら言うたんや。ほなつまらなさそうな顔して、運転しているエディーマーフィーが、ギャグで一言、全部しゃべり終わった、もう終わったかみたいな、世界平和がとか言うて、ほんでスティービーワンダーに一言。「お前、そんなこと偉そうに言う前に悔しかったら運転してみろ」とかいうそういうギャグがあるわけよ。つまり現実を見て、見てから言えみたいな、辛辣なギャグがある訳や。それにその台本に乗っかってるスティービーワンダーというのがまたすごいやろ。つまり、もうなんか、うん何て言うのかな？アメリカではだいぶ前から、そういうバラエティーの中にね、障害がある人が出たりするのが普通やったりするのやね。だから、そのときから、日本には、ないなそういうノリが。

玉木幸則：それはないな。それでも今やったらスティービーワンダーなんか、目が不自由なのに歌うまいなんか誰も言わへん。

山本シュウ：言わへん。言わへん。盲目とか言わへん。

玉木幸則：だから、ホンマそこやねん。目指すところは。

山本シュウ：そう。

はるな愛：なるほどね。

山本シュウ：もうイチイチ盲目のピアニストとか、イチイチ盲目のなんとか、とか、もういらんねん、そこは。

玉木幸則：いらんねん。ホンマに。

山本シュウ：一人のアーティストとしてどうやねんていうことやから。

はるな愛：なるほど。

山本シュウ：そうそうそう。

はるな愛：その衝撃の出会いがあったんですね。

山本シュウ：そうなんですよ。さあ、はるな愛ちゃん、次はあの曲いきますか。

はるな愛：今日はですね、素顔をさらす特別企画ということで、ちょっとね、それぞれの大好きな1曲を教えてくださいたいと思います。

山本シュウ：はい。

はるな愛：シュウさんの

山本シュウ：あ、まず、僕からね。

はるな愛：大好きな一曲を。

山本シュウ：僕はね、このあの、ラジオDJになっててですね、ミュージシャンの中で兄さんと呼んでる人がね2～3人います。その一人はですね小田和正兄さんね。兄さん。ほいで、矢沢永吉兄さん。そして、もう一人、山下達郎兄さん。

はるな愛：達郎兄さん。

山本シュウ：達ちゃんですよ、達ちゃん。この間もたまたま会いましたけど。あの、達ちゃん、ほんとにこの人には10代のときからこの人の音楽で僕は命を支えられた、救われたというですね、え～、本当に大リスペクトしている大先輩、お兄ちゃんでございますが、この業界でホントに本人と会えて、なんかいろんな話もできてすごくうれしいんですが、改めてですね、この人の中でもいろんな曲大好きですが、中でも今日は、「蒼氓（そうぼう）」という曲。

玉木幸則：うん。

山本シュウ：ま、とにかく歌詞を聞きながら聞いていただきたいと思います。「蒼氓」名曲です。

山本シュウのリクエスト

♪山下達郎「蒼氓」(そうぼう)♪

山本シュウ：ええでしょ。めっちゃめっちゃええでしょ。

はるな愛：いや、すごい。凍りついた夜にとか、

山本シュウ：歌詞、手元で見ながら、ぐっときたんやろ。

はるな愛：ぐっときますね。本当に勇気もらう曲ですね。

山本シュウ：ホンマ、あのこれな、「座右の銘」っていう言葉あるやんか、僕は「座右の銘曲」なんていう、勝手に言うてんのやけども、やっぱり達郎さんのなんかはいっぱいあるんやけども、とくにこの「蒼氓」っていう曲ね、これ実は、ファンの間ではもう大分昔からもう本当に名曲として、あの認知されてた曲で、まあ、それがもとでCMとか使われだしたりとかして、世にどんどん広まっていったんやけども、もうね、一言で言って僕にとってはね、おせっかいな僕にとっては、もう超おせっかいナンバーなのよ。ようするにようするに例えば、「ちっぽけな街に生まれ、人混みの中を生きる」って、まさに僕、僕なんかは長屋育ちやから、リンクするんやけども、そのあとの、「数知れぬ人々の

魂に届くように」っていうね、ま、この人やったら歌やんか、もうおせっかひやろ、これ。たとえば、下の方に「泣かないで、この道は未来へと続いている」なんてまたおせっかひなことというて、ね、で、一番最後は「生き続けることの意味 誰よりも待ち望んでいたい」ね、これはもう本当に、今つらいねん。ラジオ今、聞いている人でもいっぱい抱えてるやん、みんな、もうしんどい、もう諦めそうやと。でも、ここは諦めないで、一日一日目の前の今日をどう乗り切っていくわ、ほんだらいつか、あ〜、生きててよかったっていう日が、来るやん絶対な。だから、そういう意味でもものすごい勇気づけられた。特にね、東日本大震災がありました。おせっかひやから、阪神淡路大震災、僕ら、経験してるやんか、だから、もう、すぐ仲間と一緒に全国からラジオとライトと電池を集めて、配りに行こうって、ラジオマンやし、ほいでもう毎日行ってた訳、そのときにやっぱりこの曲を聴きながら行くともう、涙があふれてくる訳よ。だって「凍りついた夜」やったからね、まさにね、「凍りついた夜にはささやかな愛の歌を」。でも、そのときはラジオも流されているし、早くラジオ届けて、ほんで寝ずにその地元局の子らが、その電気がきてない中で、もう本当に髪の毛も洗わずにラジオ DJ が現地じゃべり続けている訳よね。で、それが受信できるものがないとあかんということで、もう一人でも多くの人にね、曲ね、そういう時間をもって、ラジオが聴ける時間をもっていうね、ことでやっていくと、もう本当にもう涙出てくる、これ不思議な、涙出てくるけど、勇気がうわあっとわいてくる曲でね、特にあの、はるな愛は実はさあ、うちおばちゃんやからな、これ天使や言うたやろ、さっき、中学のとき会うた時から、しやけど、それから苦労しはるねん、この子は。ほんでこんなな、あのテレビでキャッこらキャッこら言うてるけどな、自分の命絶とうとしたことある、これ。この子でも。

はるな愛：そうですね。やっぱり、やっぱりなんか、なんのために生まれてきたかっていう、やっぱり壁に当たって、また辛かった、当時その、いじめられたっていうのと、自分の性っていうのと、なんかちょうどかぶさった辛い時期があったんで、そのときはなんかね、なんかもう疲れ果てたんでしょね。

山本シュウ：疲れ果ててたんや。こんな天使な子がやで、疲れ果てる、いじめくらう、だから、バリバラ頑張らなあかんやろ。ようするに、みんな個性やないかと、はっきり思う、俺なんか個人的に言うてるからね。講演会で。男らしい、女らしいって僕らさんざん言われてきたけど、これどうでもええと、男らしい女らしいはどうでもええ。自分らしさやと、自分らしく生きやって、お父ちゃんお母ちゃんと、ほんなら男らしくなりたい奴はいくやんか、EXILE みたいになりたい言うてな。私は女優さんみたいに女らしくなりたいていきやええやんか。お〜、シュウさん、わしな、女やけどなちょっとな、男らしく生きたいねんて、おう行け行けいう感じやんか。そういう世の中に、社会になもっともっとなってくれば、

はるな愛：本当ですね。

玉木幸則：なんか本当に自然体で、生きられるんが、一番ええと思うで。

山本シュウ：そうやなあ。

玉木幸則：人の顔色とか気にしながらとか、人の言葉気にしながら自分を抑えて生きていくなんかやめ、一番しんどいことやから、やっぱし、私はこやねんみたいな成り方で生きていけたら、これ一番ええと

思うんやけど。

山本シュウ：そうやねん。ほんでもう偏差値教育やな、頭ごなし教育で、別にあれで、俺は昭和大好きやから昭和否定せえへんけど、時代とともに、築いていこう、リニューアルしていこうという意味で言わしてもらてるけど、やっぱり、所謂周りの子らと比べるいう相対評価。これはもうもちろんオリンピック選手とかな、モチベーションあげるために必要やで、でも、人が成長するのは、相対評価ではなくて、絶対評価でな、周り比べるんじゃないで、昨日の自分とどれだけ進んだかとかさ、まさにあれやんか、障害がある人なんかも、その繰り返しちゃう？

玉木幸則：ホンマそうやと思うねん。だから、特にぼくもそうやけど、ちっちゃいときから頑張れ頑張れと言われてきて、何を頑張るかっていうと、実は健常者、障害のない人に近づくことを頑張れって言われとったんや。実は、それよりは、あんたはどう生きるんやみたいなとこでの応援団かな。ホンマは欲しい訳や。

山本シュウ：それがな、ホンマにもう、あんたはあんたの個性やねん。その中で、心が喜ぶこと引っ張り込んでいこうやっていう幸せを。

玉木幸則：その通りや。

はるな愛：なんか、あのバリバラにテレビの方に出してもらったときも、玉木さんが、あのいろんな障害者の人のこう悩みとかをまとめたりするじゃないですか。

山本シュウ：はいはい。

はるな愛：そのことって、なんか普通にたぶん、みんなが考えてる日常の悩みとかのなんか答えだったりすることがすごい多くて、やっぱりすごいなんか今。

玉木幸則：ありがとう。愛ちゃん。でもプロデューサーまとめたらあかんと怒るんやで。あんたがまとめたらいかんて。

山本シュウ：もう、視聴者が心の中でまとめてくれれば。

はるな愛：でもなんかすごい答えがばっと私もそうやけども、なんか楽になることばが多いなって。

山本シュウ：いや、だから結局さ、バリバラってさ、ホンマ、あの「きらっといきる」のときからそうやけど、やればやるほどさ、この番組ってもちろん、福祉番組で障害者情報番組やけど、そこから見えてくるもんで、おい、社会ってどうやって作っていかなあかんと思う？とか、おい、まだまだ今の社会優しくないんちゃうんて気づくこととか、あるいは、一人ひとり、健常者も障害者もみんな個性があって、それこそ、あの健常者の中にも得意不得意があるやんか、だからこうあらねばならんとかね、こうするべきだとかね、なんかそういうのをどんどんとっばらっていきたいね。

玉木幸則：だからそうなってくるともう障害って言葉なくなってくる。

はるな愛：確かに。

山本シュウ：だからもうあれやで。あの、この、さっき言うたな、ラジオバトンプロジェクトいうのんな立ち上げたときにな、もうすぐ愛ちゃんに電話したんや。なんでか言うところの子、何でも手伝うから電話してって言う訳や。シンセキのな、子やから。

はるな愛：シンセキですよ。

山本シュウ：ほなな、いやいや愛ちゃん、今度な、福島相馬でな、子どもたちいっぱいおってな、あの、クリスマスパーティしよ思うのやと。しやけども、その、あんたが店やってるやると、これ店やっとな、ほいでおいしい鉄板屋さんで、お好みおいしい訳や。あのお好み持って行きたいのやけど、どうかなって言ったら、ふたつ返事やで、

はるな愛：いや、もちろん。

山本シュウ：もう二つ返事。いや、もうすぐもう私ちょっと仕事であの、この日は行かれへんけど、うちのスタッフにすぐ連絡させますいうて、さあ、ここから奇跡が起こるのや。もしもし、私あの、店長の桜井と申します。桜井くんていう子、店長から電話あったんや。ほで、あ～、あ～、ごめんな、愛ちゃんから聞いている？ごめんな。どれぐらい持って行ける？いや、300食ぐらいやったら持って行けますよ。っていう。そうか、ほんだら何月何日な。一緒に行こかいうて。ちなみにどちらに行かれるんですか？っていう。お、福島相馬いうとこや。は～。僕、相馬出身です。まずここでびっくりやろ。その次はやな、お、相馬もな、大野台いうとこでな、ここには何で行ってるかいうとな、子どもたちが多いんやと、中村第二小学校の子供たちがいっぱいおってなと言うたら。あ～、僕その小学校出身で～す。

玉木幸則：すごいな～。

山本シュウ：奇跡やろ。奇跡。

はるな愛：そうやったんや～。小学校も。

山本シュウ：そうやで、小学校。だから、当日行って、炊き出しするやろ、並んでくれてる地元の人おるやろ、みんな知りあいやわ。何してるの、あんた、桜井くん。

玉木幸則：地元やから。

山本シュウ：そうや。(笑) こんなところ、不思議な縁やろ。

玉木幸則：でも、言うで、あの、よく僕の知り合いが言う言葉やけど、えとね、偶然は必然という言葉あって、偶然に見えてるけど、実はそうなっていくようなになってあるんで。

山本シュウ：そう。つまり、今、ラジオを聞いて下さってる人は必然やいうことですね。

玉木幸則：そういうこと。

山本シュウ：これはもう絶対来週も聞いてもらわないかんいう。

玉木幸則：来週聞いたら、次も聞きたくなる。

はるな愛：あと、テレビも見たくなる。

山本シュウ：そうや、これテレビ見てなかったら、なんの番組かわからへんで。だからな、そんなとき、だからそれ、2011年も行ってくれたけど、あの、こないだも行ってくれたんよ。な。

はるな愛：はい。

山本シュウ：ほんならまた桜井くん店長来てくれたんよ。そしたら、もう噂聞いて、地元の友だちが手伝いに来たんやで。

玉木幸則：そう。

山本シュウ：そうやで。片付けも全部やで。

玉木幸則：それすごいね。

山本シュウ：すごい？いや、だから不思議な縁やねん。で、何よりも嬉しかったんは、もう福島に誰よりも早くはるな愛が入ったんや。おせっかいしとんのやな。ほいで、地元の新聞にのるわけやん。嬉しかったで。段違いで俺の写真も載ってて2人が来たいうて、全然違う場所で何の申し送りもしてへんの、このシンセキ同士がおせっかいなシンセキ同士が同じ日に行ってる訳や。これも不思議やったな、あれ。

はるな愛：ホントそうですね。

玉木幸則：必然やな。

山本シュウ：必然や。

はるな愛：なんか、もう、なんかやっぱり、したいと思う気持ち、それがもうなんか、周りの人が止めようが何しようがやっぱり、まず気持ちで、ね、しないとイケない。

山本シュウ：そうや、だからもうこの番組もそうやけど、もうな、当事者がな、叫び声上げる、そして当事者のシンセキが叫び声をあげる、もうそのためにはな、もうバラエティーを含めて、見やすくして、笑かしてやな、ほんでどんどん情報流していく。

はるな愛：「きらっといきる」を私、初めて見たときに、障害者の人たちがこうバラエティーのひな壇と呼ばれるところに、こう並んでね、(笑)で、MC玉木さんあのときもいましたよね、玉木さんね、で、私は、チャンネルこうまわさへんか、今はね、押したときに、止まったときに、「何？この番組」と思って、で、シュウさんがいて、うわ、すごい番組シュウさんやってるって言って、すぐ留守電かなんかに入れたんですよ。もうすごい素敵な番組で、呼んでもらいたいですって言って、言ったんですよ。それをきっかけでこの番組もできたので、いやホントにもうなんかこの番組は、感謝してるし、これからもこの番組でなんかいろんなメッセージを受けていきたいし、広めていきたいと思いましたね。

山本シュウ：ね～、ちゃんとまとめに入ってるよ。まとめに入ってるけど、リスナーさん誰も気づいてへんと思うんやけど、実は、予定通りに全く進んでない、なかったっていう番組。

はるな愛：そうなんですよ。もう今日はすごい盛り上がりちゃって、あのシュウさんのエピソードだけで今日はあの、今週は終わります。ということで、来週、玉木さんと私の部分をじっくりとお話したいと思いますので。

玉木幸則：そもそも、無理があるからね。

山本シュウ：無理がね。

玉木幸則：無理無理。こんな3人の話を30分ではできません。

はるな愛：濃いもんね～。

山本シュウ：できませんて、えらい滑舌ええなあ。君、言語障害、ちょっともう一回調べ直した方がええんちゃうか？

玉木幸則：こんど病院行ってくるわ。

はるな愛：次回はたっぴりとお話下さい。ということで、今週はありがとうございました。

山本シュウ：また、感想寄せて下さい。リスナーさんね。

はるな愛：さて、はるな愛のバリバラ R いかがでしたか？感想やメッセージお待ちしております。

また、番組では、みなさんの障害にまつわるエピソードや、あるある話「バリバナ」を募集しています。あて先は、郵便番号540—8501、NHK大阪放送局、バリバラの係です。

メールは、番組ホームページから、送って頂けます。ホームページのアドレスは、nhk.jp/baribara。

スペルは bari-bara です。来週の「バリバラ R」も、どうぞお楽しみに！ はるな愛でした。

バイバ〜イ！